

セミが賑やかに鳴き、夏も本番です。緑化センターは標高 200~500m に位置しますので、市街地よりも 2~3℃涼しく過ごせます。また今年も、多目的広場横のふれあいの池そばにミストシャワー（写真1左上）を設置しました。ぜひ広島市内の隠れた避暑地、緑化センターへお越しください。

★ 開 花 情 報

コアカソ（小赤麻）イラクサ科カラムシ属（写真1右上）

別名タニアサとも呼ばれる落葉低木で、本州四国九州の日当たりのよい谷沿いやスギ林等に自生します。葉は対生し、長さ 4~8cm で大きな鋸歯を持ち、葉柄は赤みを帯びます。雌雄同株で、8~10 月に赤みを帯びた穂状の花序に小さな花をたくさん咲かせます。枯れた枝が多数残るのも特徴です。同じ仲間である草本のアカソは、葉の長さが 8~20cm でコアカソよりも大きく、先端が 3 裂します。

場所：林間広場前



写真1左上 ミストシャワー（多目的広場ふれあいの池）



写真1右上 コアカソ（林間広場） H28.8.10



写真1左下 ムクゲ（見本園） H28.8.10



写真1右下 クズ（立石展望台向い） H28.8.10

ムクゲ（木槿）アオイ科フヨウ属（写真1左下）

韓国の国花とされ、原産地は中国大陸でわが国には奈良時代に渡来したといわれていますが、異説もあります。花は朝に咲いて夕方にはしぼんでしましますが、夏から初秋まで長い期間咲き続けます。ムクゲの名は、中国名の「木槿（モクキン）」からの訛化説や、韓国名の「無窮花（ムグンファ）」の音読みからの転訛説等があります。また別名のハチスは、夜にしぼむハスの花の生態に因む呼び名です。樹形は落葉低木で、花木として江戸時代に品種改良が進み、基本の薄紫色から、写真の様な白花や八重咲きなど 40 種類以上の品種があります。

場所：わんこひろば横、見本園

クズ（葛） マメ科クズ属（写真1右下）

北海道から九州の林縁や藪に自生するつる性植物で、伐採地や林縁、造成地の法面等にはびこり、高さ 20m 級の高木にも巻き上がります。古くから生薬や繊維、食品として利用され、秋の七草の一つに数えられています。全体に褐色の毛が多く、特につるや実が目立ちます。奄美以南には近似種のタイワンクズが自生します。

場所：立石展望台横他

クサギ（臭木）クマツヅラ科※クサギ属（APG:シソ科）（写真2左上）

林縁や荒地など日当たりのよい場所に生える落葉低木で、葉を揉むと特有の臭気があるため、クサギと呼ばれています。8~9月に咲く花は、葉とは対照的に甘い芳香がある合弁花で、外側は赤紫色、内側は白色を帯びます。クサギナとも呼ばれ、新芽を煮たり、炒めたりして食べる地域もあります。

場所：集いの広場、園路沿い他

キガンピ（黄雁皮）ジンチョウゲ科ガンピ属（写真2右上）

近畿から九州の林縁や岩場に自生する落葉低木で、和紙の原料にされます。7~9月、枝先に小さな黄色い花をたくさん咲かせます。花冠は4裂し、萼片の長さは約 1.5mm で内側は白色を帯びます。葉は全縁で対生し、葉柄はきわめて短くなります。ガンピ属で葉が対生するのは本種と、5~7月に白い花を咲かせるミヤマガンピのみです。

場所：樹木探勝園他



写真2左上 クサギ（集いの広場） H28.8.10



写真2右上 キガンピ（樹木探勝園） H28.8.10



写真2左下 イソノキ（中央展望台） H28.8.10



写真2右下 ツチアケビ（樹木探勝園） H28.8.10

イソノキ（磯木）クロウメモドキ科イソノキ属（写真2左下）

本州、四国、九州の乾いた尾根や湿地周辺に自生する落葉低木で、樹高 3~4m になります。葉は単葉で互生し、6~7月に黄緑色の小さな両性花を咲かせ、7月には赤い実をつけ、後に黒く熟します。真夏に赤い実を目にするのは珍しいので、山を歩いていてもよく目立ちます。名前の由来は、本種の枝を稲の結束に利用していたことにより、「ユイソノキ（結いその木）」から変化しました。

場所：中央展望台横

この他、321号で紹介したツチアケビの果実（写真2右下）が赤くなりました。

また、ヤマボウシ、タチバナモドキ、コブシ、スダジイ（写真3）等の果実もまだ未熟ですが、膨らんできています。



写真3左上 ヤマボウシ（やまぼうし橋） H28.8.10



写真3右上 タチバナモドキ（センター池） H28.8.10



写真3左下 コブシ（見本園） H28.8.10



写真3右下 スダジイ（多目的広場） H28.8.10

★園内開花状況まとめ

咲き始め	サルスベリ他
見頃	イヌザンショウ、タラノキ、ダンドボロギク、ハナツクバネウツギ、マツカゼソウ他